



洋学文庫
文庫8
C129
1



笑翁高先生校定

白石先生鬼神論

浪華書屋

文金堂



王直橋



白石先生鬼神論序
夫鬼神之跡恍兮惚兮言之難也尚
矣易傳曰陰陽不測之謂神又曰知
變化之道者其知神之所為乎唯神
也故不疾而速不行而至中庸曰鬼
神之為德其盛矣乎視之而弗見聽
之而弗聞體物而不可遺使天下之
人齋明盛服以承祭祀洋洋乎如在

晴
侯氏回
書

其上如在其左右嗚嗟先聖之教至
矣乎 我邦寶正之際白石源公學
該洽博識透淵深著作之富動及瑣
碎其所釋鬼神論一篇能近取譬而
言所難言者也其辭則諍其說則典
始則根擢經義中則旁引証異終不
歸納雅正實足蕪蒙矯襍矣唯是一
時應需小而辨物作者自不為意私

淑之徒轉傳騰寫國字糾紛訛誤相
錯殆至不可讀頃日鬻書家某為鐫
此篇校者某之刻已成吾所知於高
者來劇求叙焉余謂校者所照亦皆
轉傳之物無定本之取正則恐有未
悉考究者存而余不與焉要之鬼園
小冊有瑕類固不足捨源公之瑜此
刻足以拯私淑之徒騰寫乃為叙以

弁其首云

寛政庚申秋九月望

天山真逸撰



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '鬼神論' and '後守從五位下源君美著'.

鬼神論上

後守從五位下源君美著

Main body of handwritten text in cursive style, discussing concepts related to spirits and faith. The text is written vertically from right to left.

吾死せるんもの一死と云ふこと云らんみん孝子
 順孫なりけるを妨ぐ死せる送らざるを恐る
 りし死せるんもの事ありといふも不孝の
 子乃その親を葬らざるんことを知る死せるもの
 其物たる事ありんも妨ぐむし今乃孝なるに
 後よりづる難事指せ知らんことを夫子も告ぎん
 給ひんるん此固くよく信するがかりぬあるべし
 又子路よこころまひしといふはよく人なほよく
 まつらむんといふらんむよく鬼はほらぬさるん
 いふべし世をさるすんばつらんをよく死せるんを宣

まいさるん此固くよく信するがかりぬあるべし
 死れとよく人むつらむること成るん後鬼はほら
 ぬさるんをよる知らん生をうに知らぬ後ハ
 死せるんをよる知らぬ^トあやらの理をよる夫より
 却へてせざるんをよる^ト樊遲よる民乃義を
 信する鬼神を敬し遠きくこれ物と云と
 つらと云えまひし彼此をわたりし事んを子
 らく人にはいふる民乃義を信する鬼神
 と云ふし遠きく人鬼をうに信する此通や
 うの事なり哉知らせしそよる事なるん以て

伸るとして一元のものの所伸 其の善者凝りて伸ると陽と

いひ 春と夏と かんとして居るを陰といふ 秋と冬との陽

うちあつて居伸たり 陽の事ハ伸たりハ陽中の陽

伸る居伸あり 陰の事ハ伸たりハ陰中の陰

づらなる以て善乃良能といふある居 張横集

陰陽を鬼神といふ 伸るとの おのづから

妙なるを鬼神といふ 伸るとの 鬼を陰乃鬼神

と陽乃善といふ 伸るとの 又文又善といふ

いつ時も天神地祇人鬼といふ 伸るとの 天乃善といふ

又と氣の清らかなるものを神といふ 伸るとの 日月星

天のものがくく 又と氣の清らかなるものを神といふ 伸るとの 日月星

辰乃類 易に不可測 水と土ととも変化の何と云ふか 伸るとの

天乃あり 伸るとの 神と名づく地のこと 伸るとの

川なる 伸るとの 流るる水と云ふ 伸るとの

居る 伸るとの 地と云ふ 伸るとの 祇と云ふ 伸るとの

あり 伸るとの 作する 伸るとの 示見ハ 伸るとの

の義あり 伸るとの 人 伸るとの 鬼といふ 伸るとの

と云ふ 伸るとの 人 伸るとの 鬼といふ 伸るとの

天 伸るとの 地 伸るとの 鬼神 伸るとの

かん 伸るとの 鬼 伸るとの 天 伸るとの

礼 伸るとの 天 伸るとの 神 伸るとの

礼 伸るとの 天 伸るとの 神 伸るとの

玉のありどとくくその封内乃名山大川の等たづら
 かかりたる盧なるに其神おのけく感應する一へま
 理なりや大夫の家の子あれたる五祀の神ありがそま
 汝と感するはけくや おまほく卿大夫ハ三祀とけり王若くハ五祀と祀と有
 ありあはれなきをいにとりて祀せり三祀も戸電中雷
 門行の計とあり 禮々三年乃喪ハ 父母の
 長 天子より庶人まで連ると見え
 るるやこれより尊ぶ卑きと位より貴なる其親子
 孝たるんき心ハたふしとるる為なり一いおれと
 そ先キとす川ありいさうりてハ七世より下つくとたがひよ
 り此教を降して庶士庶人よりづら其親を誨る
 ろくそあわれむらん如くハ人死して其魂魄おれく

天と地とふかしくはと成知くくその後子孫をさする
 ぶりてといひしと又あわれけけける其理あり
 んあハ古乃聖王との禮を制するも應するすや
 いの形を人鬼といひんかその鬼神といひ事と
 礼よりけける時ハ此名りと斯人よりけけはけけ
祭儀とス
 たりけ むしハ宰我乃鬼神其名をさしけり
 夫子くく之終ひる礼乃祭儀家語等乃文あり
 鄭乃子産めくもばハ春秋傳よりえきとてこれ
 遺る言ふは鬼神の義を求むるやすけり子産乃
 ちとば人よりめく化するを魄といふ魄を主と

神といふ王者の大勢し王者すてに太祖の座となす又始祖のよりて出
 ずいしとらるる乃帝と太祖の座すまら太祖を祀すすつとくそえまら
 民ふむくい遠まを遣せすすは遠くく
 ありはとらまをさつはつ序らとなす
 一いつはそ後をさつはむ
 凡れ天下をたるとるれをアんとくも祀うとのさして
 世々尊神指すいしと備強く侍るしこのちとよりりかん
 尤き力らとるき故くくを侍るいめまはと試よられを備
 せんまも何太祖乃廟百世といふも移すんくさくんと
 と凡天下國家乃君となりて百世の太祖とて業を
 創め統を垂れます所奉はくくえ彼のまをさうけ得
 けよく天すくく高大厚地よくく名山大川の守
 を聚めまをい祀くくく天地山川百神のまとなりまを

巡りくくハ上帝に在るくまいて其神なるく日星
 とい共母唯くくみおらくくまはくく天の下一國方ち
 たりくくをその徳を祀るい其威を懼れくくつよ
 する教人の強きを祀らるの神ますは車推して
 測るへくくいふいんや甘き孫乃御身なるを百
 世といふくたどその祀をばたせ給ふへき次小親
 古くくくうはるいさくくくく主ますは保あくと
 いし捨る祖考乃精神ハ初の何く舞ふのからは精
 神なり謝上蔡我くあるこれまぐふあはれをすれ
 けは是祀考乃東條あり朱子ちくく侍るはとくは理

きちりて初めをらうとせしむるに西落をがふふ
 万々次大くあふとさいしくその後ははひの試みる
 大やうは定まりあつたすことやき魏乃未漢は
 長沙王の墓を監乃王の六世の孫吳綱と
 容の王に似てゐる可き路と
 唐乃附梁の鄱陽王乃 武帝第十の孫
蕭恢の子 墓を記すや一 次四
 此蕭頴とて王の形容に似てゐることと
 斗りや人乃子孫三五世の後かすす一人の先祖
 似たりとのあるといふは傳きかかぬの鶏の事と
 うふ魚とて其鳥骨なるも子とてうんてを子とて

子とてむ事ニ傳の後とて其鳥骨なるを相せしむ
 といふ遠くといふやうに交りては路の終となりて
 鳥骨乃性すくに尽ぬとて人の祖考乃精神
 既にしてはなるよ似たりとて思ふは鳥骨なるは
 乃は路の終とて生れ出たりは子孫の精神は
 かり祖考乃精神あるは子孫の誠敬を以て家
 子なりては度々精神あるは祖考の精神より格不
 理なりとて似たりとて漢の武帝の時未央殿の鐘
 ゆるぎありては鳴りて三日振るるやむと
 たりしに此事を問ふとて東方朔奏して對

ついで公羊の女鄭の夫人と稱する鄭乃其夫人の稱をなすなりとすし傳り世に實に後
の鄭の君外稱をなすしるすし後とすといえり外稱をなすし一晉書にアをスルウは後
實しといふ異姓と云々
先儒の事と論して北漢 陳氏 實姓を養ひて

後しるすの陽の續く事とす如くあると陰をなすてよ
續くといふは中を按すといふの鄭を姫姓の國なりと
夏乃禹王此神後たうを封さうけしる時天子の孫の後
みやたふいぬむ國小なりといふも天子の孫の後
君のほと稱へきも此いふは無からし人なりたふ
るを絶する所なり此一帝家神の統をなするにせし
一軍不孝の傳りかろるる一ははの昭れハ夫子の志
を續く事とするを世に言ふ人なり此は言ふ人なり

これ昔の君なりははら異姓乃國なり我子とて
人の後とあせし事その元とてははら理なり
あもりれ古に聖人乃罪ハ其身よりい海りて其
すつたよりおらひあらしや一事らみ人後すつたより
たらんすとあらくおらひははら一なるる一鄭乃
伯有も原となりきるは子原のはらはらなりと
かの子良止をたつて大夫なり大夫の家席と
さへんはらと ちのあまを
はらさるるをたつて一ふつて一事なりをたつてやみぬ
子大赦その事と同一し鬼驛する所ありははら
原とあせりたれははらの宿するをたつてははらと
又

の道理を仰ぐ人妻人の後きりこころの死をうらみ 又人死し
居るをすむとらふ人思はば子なき所の晋の國の時
趙原子よらぬ一とあはれん人となすあはれ伯有と
と死を身すむに鄭方其の後としく魏公の國の
卿とちりしく改よらうと既よ三在その勢ひさう
アノ節をくその鬼鬼もに強く族とく大いなる
魂魄方とくとも亦あはれしあはれその死とあはれし
魯の衰公二十 年の鬼もく居るをすむとらふ人思はば子なき所の晋の國の時
てゆするをくその鬼もに強く族とく大いなる
アノ節をくその鬼鬼もに強く族とく大いなる

その突やむく似てをさうく子産ハ鬼非乃情心を
よく知れりと先儒ハやゆく答てらる人々のち長
くく天年を終ゆる又年程とあはれと身とく
痛よらるるにほめく死せると記とあはれすれ
くくあはれくくハ勇壯乃人戦陣のあはれく戦
死し或は人暴悪乃人刑戮とあはれけ併殺せられ或ハ
自ら剣をけりいハくく縊を或は突恨を控まて枉けて
殺すれ死あはれしと殺 あはれハ暴悪乃人刑戮とあはれけ併殺せられ或ハ
婦女乃あはれく恨く妬とつめらるは僧道乃務
めく精神を辱しとあはれ倍及するにれくくいへく精非とやうくハ

してそのと何ゆふらどにえとらけしめさして巫を
 事はめとせまひしはえ太子しを中何ゆふれ亦偶
 人と太子の宮中よる事多きと偽り奏しられ
 太子を皇居にらる事けりて失はれしより司馬遷
 史記よるえとるる呪呪蔽りしもの奇鬼を採ら
 たり又その男女をほふしものハ怪鬼を捕らんと
 たり冥子乃説 何しを男女にけりてさし或は神侍に力
 のらる類ハ天地の間にありゆる怪鬼神饒のく
 千類に感ししころの人をけりて妖をけり怪
 ありしはゆふれ人れ志ちしころハその事説

しく是をたれ説 妖ハ人よりけりておろし人きん
 たりハ妖のつうしとてはとるるなり加傳 我人いむ
 所ありて或はさしけい或は怖るるゆふりの妖と感し
 招きしものしるれえしころハ事多しハあはれ身痛
 年老くそ音響つる時を真しころきころの際に
 する所り唐の貞觀力ころ西域婆羅門の僧ありて
 人を呪ひしころち地よころし息といふ事あり
 くに太史令傳奕を呪ひるる上及し事傳奕を言
 ちしことなくして彼僧たらちしはし事あり死し
 邪を正しけりしと改得るる事ありしころ人ころの邪

鬼すくふ人の身を保ちて朽の身とあつじい人の唯子
 むのりよとあつじ陽のしーや或人待と賊一字と書
 一おより人のあつちん何れ事い保ちめりるた
 す屋うしん 丸らう一人無仁と憎み樹あり命守り供へて其神を
 くらす其神降る待と作れとぞ其仁力治とてせし
 侍とていふはくはまきとぞ かのちん保人おふく奴婢の卑
 賤ちの四重の幼昧たそそし然らされえ哀病の人
 久しかり侍死しぬへまの類しられるの人へは鬼
 氏へ鬼弱まねハたう鬼襲くくみ舎へ入るふらわ
 ん八井の舎あつちん鬼あつちん人の身と保ちぬはつちん
 或は保ち物し保ちて妖とふす事あり齋乃公子

彭生ら家となつて類しれたカ たはつ かのいきる人よふ
 半つちのようし人乃想ふようかて感し保ちたりあつち
 遊鬼何れかの人子からうねあつちむし人そ
 くにとわらう保よその妻あやまちて舟よをたもち
 水く洗ちぬ夫あつち金山寺よゆみて僧と請して
 ちうき跡乃いふあつちかの女さちちち下部女
 みちちあつちく自らたつちの處よりあつちいふた
 かの死せしけのつちいふようてそれ鬼をかこの世
 むゆく迷つちあつちたつちいふ人よふ袖とま
 何れちうかくてつち乃後釣する羽かの妻と具しち来

舞ふまはしふらやとてのころやとて遊む鬼は
 人をたふすむふてのころやとてのころやとて
 けしとてのころや 程子并朱坡の言くは宋の時の事
なかりん起鬼はうかれり鬼ことなり ころはまゝかの人死
 して或は人よりや或は物よりや事を得てんまの人と生れ
 おとせれしといふも疑ふべしはや これ併氏鼎迎方語くは或は
前より人よりして後身又人となり
らうひんはたや受取やと人よりか後身
すく異形くせしと此をひたよりする ころはあゝしころ人天地の同
 たりしころたるとは魚乃水小すんるぶの腹く充るる人
 思ふれ身と浮ゆる水たると如しその身は内外とれは
 天地乃氣ありて此の寒人象氣と傳ふもこの理を傳
 ふ 孟子
乃況 ころは我父母乃言はるる天地の言はるる

わる氣はすく天地父母ありけし慶なりとては人
 死しころ鬼とぬり鬼は海の人となりあんまのかく死
 しころ母けし事きころ人のかくころの事きあ
 天地父母乃言とけしころけしころあはけしは天地
 ありけし物ありけし物なるをわたり人となり天
 地父母の氣はくよりけしころを得て自ら鬼とあを
 する人となしむる世の人ありしころ皆盤古氏の代乃
 人は死しころと生かりしころ今の代よりわたり 盤古の
人なり
ころしは
時の事 天地生く此理いふころは有る人人物はくはと
 つつと事理ありしころ事傳はかくはころは羊結ふ

の身不附託せしものさういひ付く結ぶ物さう物の性
 畜たうものさうく物く感す 後よりもの小 蠶ハ性の灵ある
 ものさうく性を物さう物さうしてハその物形をたす物
 あり漢のさうやんたうの女のけね屋で枕よりりて
 聖乃くつきより階の家れ器を物さうを何となく豚お
 みさうふまけ乃日その蠶繭をさうけさうあめ女乃
 形さう似さうかさう目りし肩のあさうなとけさうあめ
 へさう結さうこれさう金さうふさうさう物おめ女乃形さ
 うさう蠶中節あれさうさう 若菜乃り終を
浮す名終乃り 價あつて買
 得くさうあさうおさうて琴乃終さうあさうて浮くさうさう

さうさうあさうあつたさう若菜色ら女 思案談しおのさうさうさう
さう乃名終乃りし
 さうさうけさうのさうさうさうさうあさう寡女のさうあさうさう
 さうさうさうさう賈氏説林よりさうさうさうの女さ
 らの天蚕さうあさうさうさうさうさう蚕の性の灵さうさ
 ありさうさうあめ女乃蠶さうさうさうさうや人ハ可物
 の靈さうさうのさうさうさうさうさうさう聖人のけさうさ
 女子はさうさうさうさうさう邪色さうさう身に邪さうさう
 けさうさう飲食より起居の事さうさうさうさうさうさう
 さうさう胎油乃子のさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうの感さうさうさうさうさうさうさうさうさう

変ずんく言やと云るも一ある形も変ずんく彼大を如く
 時人たふすく一と熱一怖と云ふ水たふすく一と寒く流
 ハ抄の一ふく言と云ふ寸ふ玉くハ大暑くあつたると寒
 く大寒く下つてつても熱くふるも一病を患つる人其
 虫腹れ中よ生ふものも其の形をあつたると病よ
 よりく等一あつたると水あつたると血肉の等急も化一
 地乃くく熱のあつたるとの席狼と化一 龍地と化一 人
 を相く事と云ふくも其の靈なるものハ體も
 一く皆化せしむるもの雀蛤とあり田鼠ネズミとあり
 一とくハ物化乃変はくもくこれく人にもあつたると

物のも変化乃理かあつたると一しな一といふのハ雀是
 は神の理もあつたるとの物化乃変乃と云ふハ等くありと
 一物もあつたると物の変ずるハこれ其の理の乃ありと
 いふんもあつたると一これ雀蛤とあり田鼠ネズミと
 あつたると類も禮經乃載る所といふも一礼記人あるは疑
 ひつと云ハ信も蟬の蟻蟻とあり子子の改となふもの
 一と云ふ人信もあつたると一なるは疑ふ一人一人意
 一の事あり一と云ふ人乃信する處ハ同めに見れたると
 一ははらうと云ふいふも其の理を信してや彼人化一
 一のとなふも此類も本よりなるの理に下つたると人の疑ふ

とらほむとらほやうらゝ
支子乃怪とかうりきとら
とらほやうら

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 鬼神論 and 上終]

鬼神論上終

高橋氏

